



学校だより 小雀

令和2年11月25日発行
12月号
横浜市立小雀小学校

ホームページ: <https://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/kosuzume/>

菊が舞う 桜が散る 梅がこぼれる

校長 今野 敏晴

早いもので、後1か月ほどで、年の瀬を迎えます。菊が舞う季節となりました。日本の秋を代表する菊、気高さはもとより、日本人の心の在り方を伝える美と文化の象徴として古くから尊ばれてきました。菊の名前の由来は、行き詰まるという意味の「きわまる」を語源とするもので、1年の最後に咲くことから名付けられたとされています。菊が「舞う」とは、菊の花の散り際ということです。花の散り際の日本語の表現には様々なものがあります。いくつか紹介すると、桜が「散る」、梅が「こぼれる」、牡丹が「崩れる」、紫陽花が「しおれる」、朝顔が「しぼむ」、雪柳が「ふぶく」と表現します。花が散るという光景もその花の個性を伝えるために、多様で美しい言葉を使うことで、より鮮明に、正しく感動をお裾分けしているのだと思います。花が多様であるように表現が多様なことも日本語のよさかもしれません。

子どもたちにも多様性を認め合えるよう「みんな違って、みんないい」ということを折りにふれて話しています。それと同時に「人として同じもの」にも気づけるようにしています。

例えば、チュンチュンスポーツフェスティバルで、待機場所の密を避けるために3年生以上が行った「7秒間走」です。スタート地点を子どもたちに決めさせ、7秒の間にゴールをできるだけ走る競技です。人それぞれ、走る速さは違っても、「精一杯走る」、「全力を出し切る」ことは同じです。また、走る距離については「自己決定」することができることも同じです。人と争うのではなく、全力で精一杯走る子ども達の姿に見ている方々から温かい声援をいただきました。

また、以前、国際理解教室の講師の方が着任されたときに、子どもたちに向かって「違うところを探すだけでなく、同じところも見つけてください。」とお話されたことがありました。国際理解教室は、日本と講師の母国の違いから授業を進めます。「国の文化の違いはある。同じところもたくさんある。そこを見れば親しみや興味が高まる。国でも人でも共通点を見つける努力をすれば仲良くなれる」そんなメッセージだと受け取りました。

11月末から、人権週間の取組が行われます。人として全ての人が同じように大切にされなければならない「人権」について学びます。人権集会で、「偏見や差別」について学んだ後、クラスや個人で人間関係づくりに関するめあてを立てて、実践します。また、児童運営委員会を中心に居心地のよい学校をつくるために「あいさつ運動」を行います。

人は、それぞれ違った個性や特徴をもっています。国際社会の中で、21世紀を生きていくには、多様な文化や価値観をもった人々との共生が求められています。そのためには、他の人の立場に立って考えることができる想像力や共感的に理解する力を培うとともに、一人一人の違いを個性としてとらえることのできる寛容の精神を養う必要があります。そして、人として同じもの「命の重さ」や「人権尊重」などを大切にすること、生活を具体的に展開することのできる力を身に付けなければなりません。学校では、「自分を大切にすること」「周囲の人を大切にすること」「自他ともに命を大切にすること」を重視し、精いっぱい生きるよう様々な機会をとらえて粘り強く呼びかけていきます。

自分だけでなく周りの人も気持ちよく、幸せに暮らせるように、ご家庭でも学校同様、根気よく関わっていただくようお願いします。